

いきものみっけ

いきものみっけ
ファーム

News.
Vol.10

発行:いきものみっけファーム滋賀推進協議会
電話:090-7966-2262 FAX:0748-68-0598

編集:事務局 竜王 住所:甲賀市土山町黒川
E-mail:ryuoh-mtm@maia.eone.jp 平成27年2月5日発行

一日三十一日雪がちらつく空模様の中で、お餅つき。参加した子どもたちに聞いたり、「臼と杵ではお餅つきしたことがない」「見たことはあるけど」と。地域のおむすびの会のおばちゃんにお世話になり、お餅つきをしました。蒸されたもち米をまず司食、いつも食べている「ご飯」よりもチモチしていることを感じました。そして、杵で『小突き』と言われる小さな突きをおばちゃんにしていただき、いざ、餅つき、「重たい杵を持ちあげるのは」大変でしたが、子どもたちは一人で頑張りました。

ツイたお餅は、アツアツ。「アチチ」と言いながらも、手早くアンコを丸めて包みました。いろいろな形の大福もちができました。二臼目は、少し上手になつて、調子について突けました。大人たちも参加し、楽しさを味わいました。

ペッタンペつたん 寺子屋お餅つき

蒸したてもち米



小突き

ぺったん
ぺったん

つきたてお餅

きな粉餅

アンコつめ作業

○今と昔の「生活・いきもの・遊び」の比較しての理解・認識の発展をしましよう。

○広報・学校等の情報メディアへの発信をしましよう。○夏休みの宿題対応との連携事業と貢献していきましょう。

○保護者さんたちの主体的な提案に頭が下がりました。

保護者の新しい視点を取り入れ、一緒に活動することが子どもたちの育ちにも役立ちます。○協力をお願いします。

金井教授からのコメント

○二十六年度は稻・米の成長といきもの観察、食文化活動を通しての生命の循環過程について、検討してきた。後半部分では、取りまとめ・発表の機会として展開してきました。

○二十七年度の活動については、二十六年度の寺子屋の取組みを継続すると共に、「水口子供の森」との協働事業と連携して、各家庭周辺のいきものの観察・記録(記帳)の集積を進めて、「マップ」づくりを推進していきましょう。

○「子供たちの感想」は素晴らしい要点・課題の把握とキーワードの指摘でした。

○「子供たちの感想」は素晴らしい要点・課題の把握とキーワードの指摘でした。

○「子供たちの感想」は素晴らしい要点・課題の把握とキーワードの指摘でした。

きな粉餅と、大福餅と大根おろし餅を食べながら、去年の一月～三回にわたって参加したフォーラムからの学び、来年度の展開の意見を出し合いました。二十七年度について・自分たちの頭で考えて行動する活動にしようと、生活・遊び・知恵の今昔比較・地域との交流を増やしたい・みんなと仲良くてできる体験を・「いきものみっけ」らしさのために、毎回の記録を付箋でもいいから残そつ・市内小学校へ報告しようと

チュニジアからのお客様

青年海外協力隊 荏森千恵(かいもりいちえ)さん



寺子屋の子どもたちも

チュニジアの報告に興味津々

茹森さんが働いているこの協会は、地域でごみひろいのイベントをしたり、小学校について環境を美しく保つことを教えていたり、いきものみつけ寺子屋とも少し似た活動をしている団体です。

ハマムゲザズ環境保護協会

ハマムゲザズは、首都チュニスから東に3時間ほど向った先にある小さな海辺の町で、目が覚めるような美しさのビーチがあります。



チュニジアのビーチ

今年7月の千恵ちゃんの帰国が楽しみですね。

いきものみつけ寺子屋では、これから残る半年の任期で寺子屋とハマムゲザズのみなとを結んで、お互いの身の回りのこと(環境)を知るプログラムを企画していく予定です。



北アフリカにあるチュニジアのハマムゲザズという町にある「ハマムゲザズ環境保護協会」から1月31日、一人のお客さんが来られました。彼女の名前は、茹森千恵(かいもりいちえ)さん。2年前から青年海外協力隊の一員としてチュニジアでお仕事をされています。

チュニジアってどんな国? ハマムゲザズってどんなまち?

この国は、アフリカ大陸の北、地中海に面した小さな国で、イタリアからまっすぐ南にあります。北は美しい地中海に、古い遺跡が建ち並ぶ美しい町並み、南はスター・ウォーズのロケ地にもなった広い砂漠が拡がる、ヨーロッパとアフリカ・アラブの文化が入り混じった国です。言語は、フランス語とアラビア語がはなされています。



彼女は、チュニジアの協会から「日本で同じように子どもたちと一緒に環境のことを学んだり、活動している団体と友好関係を結びたい」という思いを持って、いきものみつけファーム滋賀にやってきました。国に住むみんなが、どんな人たちで、どんなことを考えて、どんな活動をしているのかをお互いに教え合って、相手のことをたくさん知つて、自分たちのことももう一度深く知れるようにしたいと思っています。

彼女は、「」で地元の繊維工場から糸くずなどを再利用する裁縫教室を運営するプロジェクトなどに関わっています。

何のためにやつてきたの?



子どもたちは、将来はお互いの国を行き来してみたいなど、これから交流を楽しみにしているようでした。